

会員全員でつくる持続可能なPTA活動を目指して

岐阜県大野町立西小学校 PTA

会長 山本 宏 明

1 はじめに

(1) 学校を取り巻く地域の概要

大野町立西小学校の校区は、揖斐郡大野町の北西部に位置し、豊かな自然と共生する土地です。近年では、白鳥や鶴が飛来し、その姿を見ようと多くの方が訪れました。



飛来した白鳥↑



飛来した鶴→

また、豊かな自然を生かした農業が盛んで、中でも柿の生産量は全国の市町村でも上位にランクインしています。一方で宅地化が進み、価値観も多様化してきています。とはいえ、親子奉仕活動への参加率や総合的な学習の時間の地域講師の人数から、学校教育に協力しようとする意識は高いことがうかがえます。

(2) 学校の概要

明治28年に瀬古尋常小学校と牛洞尋常小学校が合併してできた松山尋常小学校を祖とする、100年を超える歴史をもつ学校です。近年、児童数は緩やかに減少し続け、令和4年度は148名でスタートしました。

(3) PTA活動の概要

PTA本部役員会が、会長1名、副会長4名（それぞれが母親委員長、研修委員長、広報委員長、校外安全委員長を兼ねる）、会計1名、書記1名（広報副委員長を兼ねる）、理事3名（それぞれが母親副委員長、研修副委員長、校外安全副委員長を兼ねる）の合計10名で組織されています。毎月1回、本部役員会を設け、活動を運営しています。

今回発表する実践は、本部役員と学校が連携して企画運営にあたってきたものです。

(4) 西小学校PTA活動が抱える問題点

西小学校PTA活動が抱える問題点として、以下の2点が挙げられます。

1つ目が、新型コロナウイルス感染予防の点から、現在様々なPTA活動を縮小・中止せざるをえない状況であることです。親子で体験を共有する機会や、集団の中での我が子の頑張りを見る場面がなかなかとれないために、子どもの頑張りを価値付ける機会が減っているのです。

2つ目が、本部役員の選出です。負担が大きいこともあり、なかなか手がいないのが現状です。先述した通り西小学校在籍児童数は年々減少しており、それに伴ってPTA会員数も減少の一途をたどっています。このまま会員数が減少すると、この問題点は加速度的に重くのしかかってきます。

（５）主題設定までの流れ

このような現状を改善しようと、年度当初に本部役員会で話し合いました。まず、西小PTAとして、西小学校に通う子どもにどのように成長してほしいのかというゴールを以下のように設定し、それをサポートすることを確認しました。

- ・自己肯定感をもつ子
- ・周りの人とよりよく関われる子
- ・健全な生活習慣を確立した子

これらを具現するためのPTA活動を行うということを大原則として、それにそぐわない、あるいはその効果が薄い活動を縮小・削除していくことで負担を減らすことができるのではないかと考えました。また、組織の在り方を見直し縮小化を図ることで、負担を軽減することが可能ではないかと考えました。それにより、会員数の減少を受けても持続可能な活動ができるはずです。

また、子どもの成長につながりやすい活動を行うことで、より主体的に活動に参加することが期待できます。とはいえ、そのために新たな活動を企画・運営をすることになると新たな負担が発生し、上記の内容と相反します。そこで、既存の活動の中で目指す姿につながることができそうなものを探し、活動内容をバージョンアップすることを考えました。これにより、少ない負担でより大きな成果を得ることができます。

以上のことから、主題を「会員全員でつくる持続可能なPTA活動を目指して」と設定し、「無理をせず、できることから」をモットーに、以下のような実践を行いました。

- ・負担を軽減するための既存の活動の縮小・削除
- ・会員数減少に対応できるPTA組織再編のための規約の見直し
- ・目指す子どもの姿を実現するための既存の活動の見直し

２ 実践

（１）負担を軽減するための既存の活動の縮小・削除

新型コロナウイルス感染拡大予防のために様々な活動が中止、あるいは規模を縮小しての実施となっていました。少しずつ再開の声が聞こえるようになってきました。その中で、前例に基づきやみくもに再開をするのではなく、本当にその活動が必要なのかを考えました。この時大切にすることが、「本当にこの活動は目指す子どもたちの姿につながっているのか」ということです。この視点で活動みつめ、以下の活動の在り方を再編していきました。

ア PTAリサイクル品回収活動

毎年7月と11月に、PTA研修委員会が中心となって、校区内の全世帯を対象としたリサイクル品回収活動を行ってきました。昨年度、新型コロナウイルス感染拡大予防のために7月は中止、11月は規模を縮小しての実施という対応を取りました。それを受けて、今年度の実施をどうするかを検討する際に、「従来通り実施」「縮小して実施」「実施しない」という3つの選択肢について、それぞれメリット・デメリットを考えました。「従来通り実施」だと、収益金が大きく自力ではリサイクル品を処理できない地域の方の助けになるというメリットがありますが、負担も大きく感染リスクも上がります。「縮小して実施」だと、感染リスクを多少抑えることはできますが、収益も抑えられます。「実施しない」だと、感染リスクと負担はなくなりますが、収益も全くなくなります。いずれも一長一短だからこそ、「本当に目指す子供たちの姿につながっているのか」という視点で活動を見直しました。すると、従来の活動には児童がほぼ参加せず、自己肯定感や周りの人とよりよく関わる力を高めることにあまりつながっていないという結論に達しました。よって従来のリサイクル品回収活動を「実施しない」上で、子どもたちが主体となるリサ

イクル活動を新たに考えていくという結論になりました。学校の総合的な学習との関連で、SDG'sの発展として、子どもが自分でできる身近なことをPTAが応援したいと考えています。資源の再生につながる活動を子ども自身で行える取組の場をPTAが支援する方法を模索中です。

イ ベルマークの集計活動

PTA研修委員会が、担当していたベルマークの集計活動も見直しました。毎月1回程度委員会を開き、集まったベルマークの集計活動ですが、かなりの時間と手間がかかる作業です。そこで、従来の活動を中止し、代わりにウェブベルマーク活動をスタートしました。これはネット通販などを利用する際に、ウェブベルマークのサイトを經由することで、購入金額に応じた額が学校のベルマーク預金に加算されるというものです。これにより、研修委員が集まる必要はなくなり、大幅な負担減となりました。まだ会員の皆様に十分に周知ができていない状況ですが、積極的に啓発して、活動の充実を図っていきます。

(2) 会員数減少に対応できるPTA組織再編のための規約の見直し

先述した通り、西小学校の児童数は年々減少の一途をたどっています。10年前には200人を超えていた児童数も、今年度150人を切ってしまいました。このままのペースで児童数が減っていった場合、数年後には現在のPTA組織を編成することはほぼ不可能であると考えられます。よって、早急に今後を見越して組織の再編が必要不可欠であると言えます。これに関しては、来年度のPTA総会で提案できるよう、現在専門委員会の見直しを行っています。

(3) 目指す子どもの姿を実現するための既存の活動の見直し

目指す子どもの姿を実現するために活用できそうな活動は何かという視点で、これま

での活動を見直したところ、いくつかの候補を挙げることができました。

ア 自己肯定感を育むための朝のあいさつ当番の在り方

子どもたちの自己肯定感を育むために、子どもたちの頑張りを積極的に価値付ける場として、校外生活委員会が毎月2回行っている朝のあいさつ当番、通称「アオシス活動」に着目しました。校外生活委員が児童玄関前に立ち、登校してくる子どもたちをあいさつしながら迎えるという従来の活動はそのままに、活動の中で見つけた子どもの頑張りを口頭や手紙で学校に伝えるようにしました。そして、それをお昼の放送で全校に伝えていただくようにしました。放送で名前を呼ばれた子どもは学級の仲間に拍手されたり、担任の先生に励ましの声をかけていただいたりすることで、自分の頑張りが認められたことを実感することができたということです。このような活動を続けていくことで、次第に元気なあいさつを自分からしてくれる子どもが増え、当番を務める保護者が逆に元気をもらおうということになりました。

イ 「冬休みの我が子の頑張り」の実践

上記の価値付けは、校外安全委員と本部役員によって行われたものです。この活動をさらに会員全員に広めるために、以下のように冬休みに全家庭に我が子の頑張りを価値付

西小学校 PTA 会員の皆様へ	令和3年12月22日
大野町立西小学校 PTA 会長 前野 美穂樹 校長 高木 美保	
「冬休みの我が子の頑張り」のご協力をお願いです	
寒冷の秋、会員の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。平素は PTA 活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。	
さて、標記の件につきまして、PTA 本部役員会で「子どもたちの自己肯定感をさらに高めていきたい」という意見が出ました。そこで、冬休み期間にお子様の頑張りを見つけ、それをメッセージとして記入していただきたいと思っております。記入したメッセージ（お子様一人につき何枚書いていただいても結構です）は、冬休み明け（1月11日（火））にお子様を連れて担任の先生に提出してください。回収したメッセージは本部役員の皆さんと読ませていただき、ピックアップして PTA からのお便りに掲載して、配布させていただきます。ご多用の中かと思いますが、ご協力いただけたらと思いますので、よろしく願っています。	
（例）大掃除のお手伝いとして、玄関を掃除してくれてありがとう。 毎日自分で決めた勉強を頑張っていたね。 いつも元気な声で「おかえり」って言ってくれるね。	
年	さんへ

その結果、ほぼ全家庭がたくさんの我が子の頑張りを認め、励ますことに協力いただきました。こうして集まった価値付けの言葉をPTAからのお便りに掲載して紹介することで、新しい価値付けの視点を獲得することにもつながったと考えます。

ウ 親子奉仕活動の計画

昨年度前は、コロナウイルス感染拡大予防のために、親子で取り組む従来の活動の多くが中止となってしまいました。だからこそ、経験を共有すること、そしてその中で我が子の頑張りをを見つけ価値付けることの大切さを改めて実感することができました。そこで、感染拡大予防を行いつつ実施できる親子活動を企画しました。運動会前になると、どうしても運動場の草抜きの必要が出てきます。従来であれば夏休みのラジオ体操会の後に親子奉仕活動を行っていましたが、今年は密を避けるため、公民館の草抜き活動と連携して短時間で有志の取り組みをしました。しかし運動会を行う頃には再び草が伸びてしまいます。そこで、運動会に近い休日に改めて有志での親子草抜きボランティアを企画しています。そこで見つけた我が子の頑張りをその場で価値付け、我が子の自己肯定感を伸ばすことにつなげる予定です。来年度以降、新型コロナウイルス感染症の状況にもよりますが、親子で行う意味を大切に、時期を考えて継続していきたいと考えています。

3 成果と課題

【成果】

○目指す姿を具体化することで、活動の精選や中止・縮小を効率よく行うことができました。これにより、本部役員やPTA会員の負担減につなげることができました。また、活動の意義を見直し、目指す姿により近付ける活動へと改善することもできました。

○西小学校に通う子どもたちの頑張りを価値付ける場を設定することで、意図的に子供を認める声をかけ、自己肯定感を伸ばすことにつなげることができたと思います。PTA会員の主体的な協力があったからこそ成果だと感じています。

【課題】

●減少する児童数を受け、今後もPTA組織の在り方や活動内容を引き続き見直していく必要があります。西小学校に通う全ての子どもたちがいきいきと活動し、仲間とのかかわりの中でぽかぽかとした気持ちになれるよう、PTAとして活動していきたいと思います。

4 おわりに

今年度は今後を見据えてPTA活動を大きく見直す過渡期を迎えています。従来の活動の実施をあきらめるのではなく、子どもの成長に軸をおいて、持続可能なPTA活動を再構築する取組の準備を今後も進めていきます。